

社会を明るくする

運動の 街頭啓発活動

7月13日ショッピングセンター東武前で「社会を明るくする運動」中標津町推進委員会非行防止街頭啓発活動がありました。

犯罪や非行の防止、また、それを犯した人の立ち直りには様々な協力の方法があることを示し、多くの人に協力者として気軽に参加してもらったための取組です。

この日、中標津町民生委員児童委員協議会、中標津地区保護司会、更生保護女性会、中標津町日赤奉仕団柳会の会員総勢70人余りがショッピングセンター入り口前で啓発活動を行いました。午後2時から理事者あいさつの後、30分余りの活動で啓

発内容の書かれたボールペン、メモ帳、ポケットティッシュをめいめい配り終えました。



中標津町 民生委員児童委員 協議会の各部会・ 委員会について

今回は4つの部会の一つである「児童母子部会」を紹介します。当部会も14名で構成されています。

次代を担う児童(青少年)が、家庭、学校、地域の中で健全に育ち、社会の一員として自覚ある心豊かな人間として成長することを願い、それととりまく諸問題に対応するため、次の内容について調査研究に取り組んでいます。

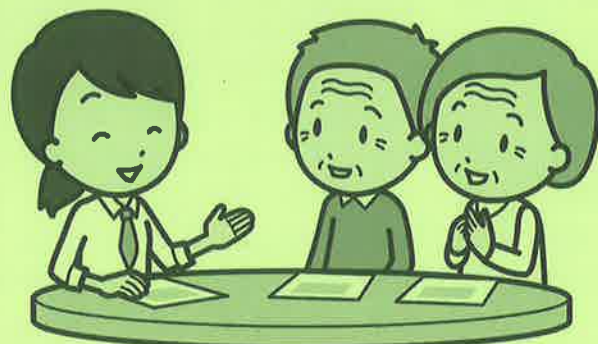
- ・子育てについて(教育、しつけ等)。
- ・家庭教育について。
- ・親子関係について。
- ・学校教育について(不登校児童等問題行動)。
- ・地域における教育活動(こども会活動等)について。
- ・家庭、学校、地域の連携等について。
- ・関係団体、機関との連携について。



福祉のことば

「アセスメント」

事前評価などと訳される。介護施設や介護サービスなど、利用者が直面している問題や状況の本質、原因、経過、予測を理解するために、援助に先立って行われる一連の手続のことをいう。ケアマネージャーがケアプランを作成する前に利用者のニーズ、状況等を詳細に把握するために行われる。



編集後記

◆先日友人とコロナ時期の運動不足解消のために卓球をしていたところ、ひと休みしていると友人が「いやあ最近AI(人工知能)が歌も作ってるんだなあ。すごい時代になったもんだ。」と思っていたら、AI(アイ)って言う歌手だったんだなあ。おどろいたさ。」という朝ドラのカムカムエヴリバディの主題歌の話だった。ちょっとした笑い話だが、最近ではテレビニュースのアナウンサーの代わりにAIが話しているし、医療では、内視鏡手術などは、AIが行う時代に入りつつあるという話を聞きました。これからのAIは、ますます人類の役に立ちそうな可能性を秘めているそうです。高齢の一人暮らしの家庭や生活に困難な方の所に設置し、生活する上で今どんな支援や手立てが必要か的確に指示してくれたり、関係機関に連絡する手はずを取るなどAIの可能性は無限大と言えるかも。どのように設置するかは課題だが、人類と平和のためにこそ役立てて欲しいと思うこの頃です。

今60号で広報委員会任期3年の最後となりました。次号から新しいスタッフによる「ふれ愛」となります。3年間ありがとうございました

(山上 裕和)

民児協だより

ふれ愛



この広報誌は赤い羽根共同募金の助成を受けて発行しています。

=第60号=

令和4年9月発行

中標津町民生委員児童委員協議会
(中標津町役場町民生活部福祉課内 ☎73-3111)

『町営住宅運営委員を担当して』



中標津町民生委員児童委員協議会

総務企画副委員長 服部 峰雄

数年前より民生委員という立場で町営住宅運営委員を担当させていただいています。

この委員は総数10名程度で町民福祉という視点で民生委員

私は有力者などに頼らず自力で数回の投書と直談判で何とか入居しましたが、これはもう「福祉」とは無縁の行政でした。

私は当初に居住してからは社宅、自宅生活で現在に至っている関係で公住入居を希望する方々の気持ちはしばらくの間忘れていたところでした。

ここにきて私の経験してきた公住入居事情と現在の当町の公住入居事情の落差に今更ながら考えさせられました。私たち運営委員の仕事は困っている人たちに寄り添い少しでも助けになってあげる。そして公平で平等にといった理念のもと、衣食住における

翻って、私は現役時代とある町で経験した公住入居事情とは極めておそまつなものでした。入居申込書を何度出し

「住」の面での福祉の推進ということが大きな使命であるということを今更ながら感じています。

でも音沙汰なしで、本当に入居したいのであれば、町の有力者に依頼することが常識となっていました。もちろん入居基準や選考過程などは全く公開なしでした。そんな中で

公開なしでした。そんな中で

令和4年度 中標津町民生委員児童委員 協議会 道内研修報告

●と き 令和4年6月13日～15日
●ところ 伊達市・白老町 他

令和4年6月13日～15日の3日間28名の委員が参加して道内研修を行いました。

一日目は伊達市のだて地域生活支援センターの視察研修です。まず館内で実際に行われている支援を見学し、その後「共生型地域福祉拠点」の取り組みについての説明を聞きました。事業を行うための人材（お世話をする人）が不足していると、最後に話された事が心に残りました。

二日目はまず昭和新山へ。山頂からの展望は、残念ながら霧のため見ることは出来ませんでしたが、間近で見た昭和新山は自然の成す業におどろきを感じさせられました。次に白老町のウポポイ（民族共生象徴空間）の視察です。国立アイヌ民族博物館では、アイヌ民族の歴史文化を学び、体験ホールでは、民俗芸能を鑑賞しました。その後は自由行動となり、園内を委員交流を図りながらの見学となりました。

三日目は恵庭市《えこりん村》の見学です。園内マップを貰って自由に委員同士が少人数でグループを作り、広い園内に設計された数々のテーマガーデンを密になることなく散策しながら親睦を深め、今後の活動に活かせる研修になりました。

今回の道内研修では、新型コロナウイルス感染症の防止対策として、出発前より体調管理を行い、研修中体温の計測・手指消毒・マスク着用・黙食等の基本的予防対策をしながらの研修でした。



だて地域生活支援センター（共生型地域福祉拠点事業）の取り組みについて

初日の伊達市の見学先「だて地域生活支援センター」について紹介させていただきます。

経営は社会福祉法人 北海道社会福祉事業団で昭和43年に設立され、平成18年4月に北海道と伊達市から5つの施設の譲渡を受け現在は、分散していた事務所も一ヶ所に集約し、自ら運営しているとのこと。



地域社会が人間性あふれる潤いのあるものとなるよう福祉サービスの充実と発展を目指し、障がい者だけでなく高齢者や子どもなどが地域住民と共に集い、交流し、お互い支え・支えられながら安心して地域で生活していく「共生型地域福祉拠点」となることを目指しています。

伊達市の施設は有珠山、昭和新山、洞爺湖中島の近くで環境も良く広い敷地の中、大きな木造平屋建てで、バリアフリー、車いす対応の部屋、廊下、2方向支援が出来る浴槽配置等、介護するうえでも余裕ある広々とした造りになっています。

またここでは障がい者に働く場の提供、利用者の高齢化や障がいの重度化に対応したサービスを提供するグループホーム、短期入所や交流エリア、大型テレビ、通信カラオケなどの機器も用意し、先に記述した障がい者だけでなく、子育て世代、高齢者、子ども達が集い交流できる施設となっています。

中標津町にも当法人が運営する「なかしべつ地域生活支援センター」があり「共生型交流センター（根室圏域障がい者総合相談支援センターあくせす根室、喫茶サロンばればれ）」、障がい者グループホームふれあい寮を供用開始しております。また、ボランティア団体等によって、高齢者・子ども・障がい者がお互いに支え・支え合える地域コミュニティづくりの場として「ふれあい食堂」を不定期に開催しています。

伊達市だけでなく札幌市等の他、中標津町にもこの共生型地域福祉拠点があることを再認識させられました。



民族共生 象徴空間 ウポポイ

ウポポイとは

ウポポイ（民族共生象徴空間）は国の貴重な文化でありながら存立の危機にあるアイヌ文化の復興・発展の拠点として、また将来に向けて、先住民族の尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴となる空間です。愛称である「ウポポイ」とはアイヌ語で「（おおぜいで）歌うこと」を意味します。



アイヌとは・アイヌ文化とは

アイヌとはアイヌ語で「人間」を指す言葉。人間の生活を支える自然などのカムイ（神）に対して私たちは人間であるという意味です。

アイヌは、独自の言語、文化、歴史を有する先住民族です。かつては、本州北部、北海道、樺太、千島列島に住み、狩猟、漁撈、採集、農耕、周辺民族との交易を生業として、各地にコタンというコミュニティーを形成し暮らしていました。

衣服や道具、祭具に見る美しいアイヌ文様、ユカラに代表される口承文芸、カムイとの関わりから敬い、感謝し、時に威嚇するカムイノミ（祈り）、神々とともに楽しむ歌や踊りなどの世界観は、アイデンティティそのものであり、日本の多様性を表すものです。



ウポポイではアイヌの文化や世界観、自然観、信仰等を伝える為に様々なプログラムが用意されています。その一部をご紹介します。

今から350年前に現在北海道で起きた～シャクシャインの戦い～強権的な支配を強め、不平等な交易を強いる松前藩に対して勇敢にも反乱を起こし、アイヌ諸集団を糾合して徹底抗戦を企てたシャクシャインでしたが、その最期は松前藩の和睦に見せかけた計略にはまり謀殺されるという、悲劇です。

これは博物館の「アイヌ2つの乱」という5分程度の動画でとても印象深かったものです。沢山のウポポイ体験の中でアイヌの歴史に触れる事となった出来事でした。

大変貴重な体験となったウポポイの研修でした。

